解説

技術者に求められる力量の確保について

小松　孝輝（こまつ　こうき）
仙台市建設局
下水道経営部下水道計画課
（推進工事技士）

1 はじめに

私は平成16年に仙台市に入庁し、今年度で18年目になります。職種は土木職ですが、初任地は下水処理場で水質管理の業務を担当し、途中、国土交通省下水道部での勤務を含めて18年間下水道に携わってきました。

私は学生時代から様々な資格取得に挑戦しており、入庁してからは、業務と関係のある資格試験を受験するようになりました。業務に関連する知識を深めようと思っても、明確な目標がなく勉強するのはあまりモチベーションが上がらないため、「資格を取る」という具体的な目標を設定してきました。管路建設課という下水道管路建設工事を担当する部署に在籍していた頃に推進工事もいくつか担当し、その経験を踏まえて受験したのが推進工事技士で、試験に合格したのは平成21年のことでした。

推進工事技士を含め、私がこれまで取得してきた資格の多くは、どちらかというと受注者であり現場実務等を担う民間の技術者の方が保有するものですが、その技術者の方々と対等に接する時に、最低限の知識を身につけておくために自身も同じ資格を持つ、という意識で勉強を続けてきました。

2 発注者における推進工事技士の役割

推進工事を適正かつ安全に施工するには、通常の土木施工管理技術に加え、推進工法固有の専門化した高度な技術、技能が求められます。またその設計にあたっても、やはり推進工事に関する専門的な知識が必要となります。こうした技術や知識の証明として、推進工事技士という資格があり、推進工事の設計、施工を担う技術者に対しては、入札参加条件や総合評価方式における加点として組み込むことなどにより、推進工事の品質確保に活用する事例も見られます。

一方、発注者側の技術者においても、推進工事に関する知識が乏しければ適正な工事発注にはつながりませ

表－1　入庁してから取得した主な資格

年度	所属	取った資格	
平成16～17年度	南蒲生浄化センター（水質担当）	浄化槽管理士 公害防止管理者(水質3種) 下水道技術検定(3種) 公害防止管理者(水質1種) 下水道技術検定(2種)	水質や処理場の資格
平成18～20年度	管路建設課（工事の設計・監督）	下水道技術検定(1種) 2級土木施工管理技士 下水道管理技術認定試験(管路施設)	ようやく土木関係
平成21～23年度	下水道計画課	推進工事技士 コンクリート技士 1級土木施工管理技士 簿記検定	工事の経験から アセットマネジメント
平成24年度	経営企画課		
平成25～29年度	下水道調整課	技術士(上下水道部門) 技術士(総合技術監理部門) 工業英検 下水道管路管理主任技士/総合技士 土木学会1級土木技術者〔マネジメント〕	国際会議JICA